

令和8年6月19日（金）

第2回定例会一般質問

（要旨及び質問順位）

新冠町議会

第2回定例会一般質問

- 1 中山 千鶴子 議員
福祉施設の現状と今後のあり方について
- 2 武藤 勝罔 議員
ナチュラルビズの取り組みについて
- 3 武藤 勝罔 議員
「結婚新生活支援事業」制度導入について
- 4 海馬澤 真紀子 議員
ピーマンの生産と消費拡大について
- 5 酒井 益幸 議員
道の駅ゾーンについて
- 6 但野 裕之 議員
避難所マニュアル作成と開設BOXの設置を
- 7 但野 裕之 議員
成年後見制度について

第2回定例会一般質問要旨

NO. 1

順位	質問議員名	発 言 要 旨	答 弁 を 求 る 者
1	中山 千鶴子	福祉施設の現状と今後のあり方について	町 長 教育長
<p>近年、過疎化が進む地方の福祉施設は様々な問題を抱えている。 少子化による保育施設の定員割れ、共働き世帯の増加による学童保育施設の不足、老人介護施設の人材不足とサービスの低下、財政難による施設の老朽化。 福祉施設は生活に密接に関係する大切なもの。 当町における福祉施設の現状と今後のあり方について伺う。</p> <p>①認定こども園、児童館クラブの定員と実際の預かり人数。 ②恵寿荘の定員と実際の利用数。 ③各施設の今後のあり方について。</p>			
2	武藤 勝圀	ナチュラルビズの取り組みについて	町 長
<p>当町も近年の気候変動に合わせる形でクールビズ期間を延長するなど柔軟に対応していますが、最近では多くの自治体がこの取り組みを発展させ、個別の期間を設定せず、それぞれが主体的季節に応じた服装を判断する「ナチュラルビズ」へ移行しています。これにより年間を通じて省エネや節電を強く意識した働きやすい格好で業務を遂行することが出来ます。気温や体調に応じて冷暖房に頼らず身に着けるものを選択することで仕事の効率も上がり、職場環境の改善にもつながると思います。 ゼロカーボンシティの施策実現に資する点からも、通年での軽装執務の導入をすべきと思いますが、見解を伺います。</p>			
3	武藤 勝圀	「結婚新生活支援事業」制度導入について	町 長
<p>本案件については、令和7年第2回定例会において同僚議員が質疑されておりますが、令和8年度予算には反映されておりませんので、改めて質問いたします。 現在、新冠では結婚された夫婦に対しては、新冠温泉のペアフルコースの食事券と入浴券が贈呈されています。 2016年から国の交付金を活用して道と町との「結婚新生活支援事業」、がスタートしています。この制度は新婚世帯を対象として、結婚に伴う新生活のスタートアップにかかる費用（新居の購入費、リフォーム費用、家賃、引っ越し費用等）の支援が行われています。この制度は一定の条件を満たす新婚世帯に対して、北海道と市町村が補助する少子化対策の支援制度です。 この制度は、現在、道内の66市町村で取り組まれており、管内でも3町が取り組んでいます。若い世代にとって住宅支援等は重要であり、新冠でも、この事業に取り組むべきと思いますが、見解を伺います。</p>			

第 2 回定例会一般質問要旨

NO. 2

順位	質問議員名	発 言 要 旨	答 弁 を 求 る 者
4	海馬澤真紀子	ピーマンの生産と消費拡大について	町 長
<p>1 点目、農家の減少はピーマン産地の維持に大きな影響があります。 新規就農の確保など、産地の維持に向けてどう取り組んでいきますか。</p> <p>2 点目、ピーマンソフトクリームやピーマンみそなど商品化されていますが、今後ピーマン料理コンテストや食育活動など町内外への P R の取り組みのお考えはありますか。</p>			
5	酒井 益幸	道の駅ゾーンについて	町 長
<p>道の駅ゾーンは日高自動車開通後、人の往来が増加し賑わいを見せている。町民の生活に欠かせない買物の場として店舗が軒を連ね、文化・教育などの拠点であるレ・コード館を有している。</p> <p>この特徴ある道の駅ゾーンは、町の象徴として誇れるものであるが、特に週末や連休において賑わいを見せる一方で、時間帯によっては混雑し、駐車場の空きスペースが少なく駐車しづらい状況が続いている。対策を望む声があることは町と共有している。現時点での対策や協議内容を伺う。</p> <p>町民でも混雑回避を余儀なくされる方がいる。結果として目的地を変更し、近隣町への移動に拍車がかかる恐れがある。このことから混雑緩和、交通安全対策、民間コンビニへの迷惑駐車防止の観点から、駐車場の改良をすべきである。利用計画の議論を加速し協議検討しては。</p> <p>新たに道の駅裏の J R 跡地を含めた町有地に駐車場を拡張してはどうか。付随し、インフラ整備も重要と考え、歩行者及び車両通行の利便性を図るため、新たなルートから通行できるよう、計画的に J R 跡地を町道認定する考えは。</p>			
6	但野 裕之	避難所マニュアル作成と開設 B O X の設置を	町 長
<p>昨年 8 月と 1 2 月、今年 4 月に津波警報が発表され、町は避難指示を発令した。一次避難所である新冠小学校では、担当町職員と共に自治会役員が避難所開設に当たったが、初動作業がスムーズに行われなかった状況が見られた。</p> <p>その要因として、1 点目。マニュアルがなく避難所運営の基本的手順と留意点が周知されていないこと。2 点目。避難所開設に必要な資機材を収納した開設 B O X が無いことがあげられる。</p> <p>早急にマニュアルの作成と、各避難所へ開設 B O X の配置を求める。次の 3 点について伺う。</p> <p>①町独自のマニュアルの有無。ないのであれば、北海道版避難所マニュアルを活用遵守すべきでは。</p> <p>②マニュアル運用に当り、担当職員、施設管理者、自治会 3 者合同の勉強会が必要なのでは。</p> <p>③避難所開設 B O X は各避難所に必要なもの。速やかに配置すべきでは。</p>			

第2回定例会一般質問要旨

NO. 3

順位	質問議員名	発 言 要 旨	答 弁 を 求 る 者
7	但野 裕之	成年後見制度について	町 長
<p>認知症の人らを支援する成年後見人制度が見直されることとなった。成年後見人制度は、認知症や知的障がいなどで、判断能力が不十分な人の権利や財産を守るため、家庭裁判所が選任した法定後見人が本人の代わりに、財産管理や福祉サービスの手続きなどを行うもの。</p> <p>現行制度では、例えば、配偶者の遺産相続を機に利用を開始した場合、相続が終わっても本人の判断能力が回復しない限り、利用を終了することができず、後見人への報酬を支払い続けることになる。事実上の「終身制」となっていることが利用への妨げとなっている。</p> <p>改正案では、制度の利便性を計り、特定の案件ごとに制度を利用できるようにし、案件が解決すれば支援を終了する仕組みとなっている。</p> <p>決算委員会の質疑では、これまで成年後見人制度の利用はなく、問い合わせはあったとの説明。町内には、認知症や軽度認知障がいの人も存在している。改正における改善点を町民に広く周知すべきと考える。</p>			